

## 巻頭言

### ■焦らず、慌てず、諦めず



徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Shigeaki Sano

**戦** 後間もない1949年(昭和24年)5月、学芸学部ならびに医学部、工学部の3学部からなる徳島大学が国

立大学として設置されました。「人・地域をはぐくみ未来をつくるー徳島大学70ー」というキャッチコピーのもと、少々動きに難のある公式マスコットキャラクター「とくぼん」が、来年に迫った徳島大学創立70周年を盛り上げようと奮闘しています。一方、薬学部の歴史は古く、その起源は長井長義先生のご提言により徳島高等工業学校応用化学科に製薬化学部が設置された1922年(大正11年)10月に遡ります。製薬化学部は、徳島高等工業学校製薬化学科、徳島工業専門学校製薬工業科、徳島大学工学部薬学科へと改組された後、1951年(昭和26年)4月に工学部より分離独立し、わが国唯一の工学系に端を発する国立大学薬

学部として徳島大学薬学部が誕生しました。したがって、薬学部の歩みは製薬化学部で授業が開始された1923年(大正12年)4月を起点とし、5年後の2023年には大きな節目となる創立100周年を迎えます。その歴史を振り返るとき、幾多の困難に遭遇しながらも屈することなく、「薬の創製(創薬)をめざす」という学部創設の精神に基づき、徳島大学薬学部の躍進を支えてこられた卒業・修了生ならびに教職員の方々のご尽力には感服するばかりです。歴史の重みを厳粛に受け止め、新たな未来をしっかりと見定め、「焦らず、慌てず、諦めず」の精神で、みなさんと共に着実な歩みを続けたいと願っています。

## 国際交流

### ■東國大学校との学術交流

徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Shigeaki Sano

**大** 韓民国でも有数の大規模私立大学として知られる東國大学校にある薬学大学(College of Pharmacy, Dongguk University)との部局間学術交流協定に基づき、本年度も2名の教員(Prof. Chang-Ik ChoiとProf. Young Hee Choi)が7月3日から2泊3日の日程で徳島を訪問されました。「平成30年7月豪雨」をもたらした台風7号が接近する中、幸いにも特別講演会をはじめ薬学部の

### ～さらなる発展と深化をめざして～

施設見学、薬学部教員との懇親会、藍染体験や阿波踊り体験など、予定したすべての日程を無事に終えることができました。東國大学校薬学大学と徳島大学薬学部は、平成24年12月に部局間の学術交流協定を締結し、毎年2名の教員が相互に訪問することで交流を深めてまいりました。平成30年11月に藤野裕道教授と田中直伸准教授が訪韓されますと、合わせて31名の教員(東國大学校薬学大学教員16名、徳島大学薬学部教員15名)が相互に招聘・派遣されたこととなります。昨年末には部局間学術交流協定を更新いたしましたが、学術交流のさらなる発展と深化をめざし、今年度中には本協定を大

学間の国際交流協定へと格上げすべく、協議を進めているところです。今後も地道な交流活動により両大学間の相互理解を深め、大学間ひいては両国間の関係強化・拡充に少しでも貢献できればと願っております。



Young Hee Choi 先生と Chang-Ik Choi 先生(右)

## 後輩へのメッセージ

### ■ 国家公務員・厚生労働省職員という選択肢



厚生労働省健康局健康課予防接種室  
室長補佐

#### 賀 登 浩 章

Hiroaki Kato

**学**生の皆さん、充実した大学生生活を送ってますか？どの学年でも、進路や将来について考えながら日々過ごしていることかと思います。学生生活を終えた私としては、自分の未来について考え、選ぶことができる年代にいることをうらやましく思います。

私は卒業後、国家公務員として厚生労働省の職員になる道を選びました。「公務員」から連想するのは、都道府県庁や市役所の地方公務員、それとも、地方厚生局や麻薬Gメンでしょうか？9時5時勤務のイメージとかでしょうか？国家公務員についてどんな仕事がよく知られていないので、この機会に少しご紹介します。

主な勤務地は東京、国会議事堂の近くの霞が関という官庁街にある中央省庁の一つの厚生労働省で私は働いています。職場には、薬学以外にも、医療関係資格を有する方、法学・行政学等の文系の方、数理職の方等、様々な背

景を持つ仲間がいます。私は最後の4年制の学年で卒業後すぐに入省したので、今年で入省10年目を迎えました。国家公務員の仕事を一言で表すのは難しいのですが、ルール（制度）を整えることで社会の課題を改善・解決することではないかと考えています。

社会問題は大小、様々なものがたくさんありますので、厚生労働省以外の省庁でも課題解決に向けて奮闘していますが、厚生労働省は「ゆりかごから墓場まで」生活の様々な場面に関わっています。大きな課題としては、年金・医療・介護等からなる社会保障制度の発展と持続可能性の向上、健康寿命の増進等が挙げられます。その他にも、現在急速に進んでいる少子高齢化に対応できる医療や介護の提供体制を整えることや、日本の創薬力を向上させ画期的な新薬の開発を促進することなど、生活する上で重要な課題の多くを厚生労働省が担っています。

皆さんの先輩の多くが就職している製薬企業や医療機関・薬局の業界は多くの制度と密接な関係にあるのですが、意識したことはありましたか？承認審査制度や薬価制度、診療報酬・調剤報酬制度や医薬品販売制度等、多くのものがあります。どのように制度を整えていけば、世の中のためになるか、課題解決につながるかを考え、実行することが仕事です。私が大学生の頃は、「ドラッグラグ」は非常に大きな問題として取り上げられてました

が、様々な政策により、近年、徐々に解消しつつあると評価されています。

私の好きな坂本竜馬の言葉で「世の既成概念を破るとというのが、真の仕事である。」というものがあります。厚生労働省に入省したので、新薬の発明に直接関わることはできませんが、制度設計の立場から、新薬が世の中で使用されることに関われることや、薬剤師がより医療・介護に貢献できる方策を考えることができることを嬉しく思っています。

私のように厚生労働省を志望する人は徳島大学薬学部ではそう多くないようですが、そもそも、そういう選択肢があることを知りづらい、知る機会が少ないことが主な要因であって、他大学と比較したポテンシャルの違いによるものとは思っていません。

卒後10年の間に、徳島大学薬学部のカリキュラムや授業内容も改善され続けていて大変嬉しく思っています。よければ、薬をとりまく「制度」を一度見返してみたいかがでしょうか。



## ■ 創薬体験



有機合成薬学分野 助教

### 中山 淳

Atsushi Nakayama

本年8月20日、21日の2日間にわたり、高校生28名を対象に日本学術振興会の研究成果の社会還元・普及事業 ひらめき☆ときめきサイエンス「阿波『藍』から学ぶ色素の化学—染料から蛍光まで—」を開催させていただきました。本プログラムでは、始めに徳島の誇る藍染を題材にして、ミクロの世界で展開される様々な化学反応によって伝統的な藍染の技法が構築されていることを概説いたし

ました。染料を有機化学の視点で学んだ後、最先端の生命科学研究に貢献している、我々独自の細胞染色試薬 CytoSeeing® を高校生自らの手で化学合成していただきました。短時間で有機化学実験をするという非常にタイトなスケジュールの中でも、普段することができない本格的な有機合成実験を真剣に、そして時に笑顔を見せながら行っている高校生対の姿を見て、科学の楽しさをこちらでも再認識させていただきました。その後、合成した CytoSeeing® をがん細胞にふりかけ、細胞が染まる様子を観察していただきました。高校生たちの真摯な努力の甲斐もあり、どのグループの CytoSeeing® もがん細胞をピカピカに光らせることができました。本事業を通じて少しでも科学に興味を持ち、そして本学薬学部で学びたいと思っていただければこれ以上の喜びはありません。末筆になりましたが、本事業を実施するにあたり、ご指導ご鞭撻いただきました難波康祐教授、企画段階から共に動いてきた猪熊翼助教、中尾允泰助教、福田達也助教、広報等お世話になりました技術職員の北池秀次氏、実

施協力者として高校生に徳島大学薬学部生としての威厳を示してくれた学生諸氏、関係の職員の方々に深く御礼申し上げます。

#### 【実施代表者】

難波 康祐 (大学院医歯薬学研究所 教授)

#### 【実施分担者】

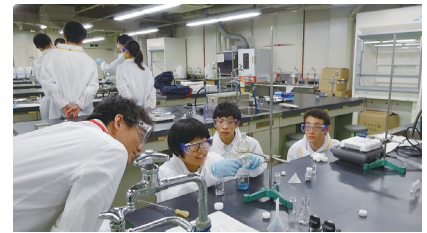
中山 淳 (大学院医歯薬学研究所 助教)

猪熊 翼 (大学院医歯薬学研究所 助教)

中尾 允泰 (大学院医歯薬学研究所 助教)

福田 達也 (大学院医歯薬学研究所 助教)

北池 秀次 (技術支援部蔵本技術部門 副技術部門長)



蛍光分子を合成している様子



集合写真

## ■ 薬学・薬剤師体験



臨床薬学実務教育学分野 助教

### 阿部 真治

Shinji Abe

今年度も高校生を対象とした薬学・薬剤師体験として、平成30年8月20日および21日の2日間、独立行政法人日本学術振興会研究成果の社会還元・普及事業である「ひらめき☆ときめきサイエンス」のプログラム「臨床研究事件簿 2018～薬学的知識と実験を駆使して臨床現場の謎を解明せよ～」を開催いたしました。プログ

ラムでは最初に「薬剤師による臨床研究と治療法の開発について」の講義を行い、臨床現場の薬剤師も研究を行っていることを紹介しました。続いて基本的な調剤手技を体験した後に、3グループに分かれて注射薬の配合変化について実験を行いました。さらに、実験結果に基づいて安全な注射薬の組み合わせについて討議を行い、薬剤師による臨床研究の重要性について理解を深めていただきました。

今回のプログラムでは徳島県内の高校だけでなく、福井県や山口県、兵庫県、愛媛県、香川県の高校から合計27人の高校生が参加してくれました。参加者の多くが薬学部への進学を希望しており、さらに研究活動に対して強い興味を持つ学生もいたので、大変活発な討議がなされました。今回のプログラムへの参加によって、新しいことを生み出す研究の面白さを実感できたという声も多数ありましたので、今後も高校生対象のプログラムを実施し、研究能力を有した薬剤師や薬学研究者の育成につなげていきたいと考えてい

ます。

#### 【実施代表者】

阿部 真治 (大学院医歯薬学研究所 助教)

#### 【実施分担者】

久米 哲也 (大学院医歯薬学研究所 教授)

佐藤智恵美 (大学院医歯薬学研究所 助教)

田中 朋子 (大学院医歯薬学研究所 助教)

北池 秀次 (技術支援部蔵本技術部門 副技術部門長)

堤 沙織 (大学院医歯薬学研究所 事務補佐員)



注射薬の配合変化についての実験



参加者のみなさんと

# 研究紹介

## ■ 血液中の「善玉」を利用して、動脈硬化を治療する – HDL 創薬への挑戦 –



製剤分子設計学分野 准教授

奥平桂一郎

Keiichiro Okuhira

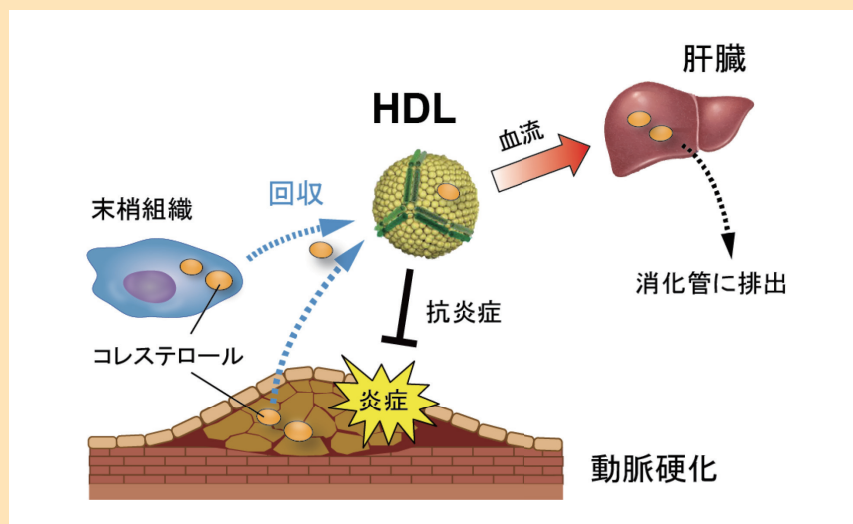
**血**液検査で「コレステロール値が高い」と診断されたことはないでしょうか？一口に血中コレステロールと言っても、「善玉」と呼ばれる HDL コレステロール (HDL-C) と「悪玉」 LDL コレステロール (LDL-C) の大きく2つに分けられます。HDL、LDL は「リポタンパク質」と呼ばれる血液中の乗り物（脂質キャリアー）であり、LDL-C が高いと心筋梗塞や脳卒中などの動脈硬化性疾患の発症リスクが高く、HDL-C が高い場合は逆にリスクは低くなります。コレステロールという分子は1種類しかないので、なぜ乗り物が違うと善玉と悪玉に分かれるのか？それは、LDL と HDL でそれぞれ生体にとっての役割が違うからです。LDL は全身にコレステロールを供給するための乗り物ですが、増えすぎると血管壁に蓄積するようになります。これが動脈硬化の始まりです。一方で、HDL は過剰に蓄積したコレステロールを全身から回収して、排泄処理する肝臓へと輸送する役割を担っています（右図）。それだけでなく、HDL は血液中で炎症の行き過ぎに歯止めをかけたり、酸化を抑えたり、血栓ができるのを予防したりす

ることで、動脈硬化に対して様々な面から抑制的に働くことが分かってきました。さらに最近は、ガンや認知症などとの関連も指摘されています。つまり、HDL の生体における役割を理解し、戦略的に利用することは、病気の予防や治療を考える上で極めて重要です。私たちは、この HDL の機能と治療への応用の研究を中心に行っています。

HDL が「善玉」なら血中の HDL の量を増やせば良いということになるので、製薬会社を含めた世界中の研究機関が HDL を増やす薬を求めて研究を行っています。我々も血液中で HDL を増やすことを目指して、ペプチドを用いた HDL 産生誘導剤の開発や、脂質メディエーター（脂質シグナル分子）による HDL 恒常性制御の研究を進めています。しかし、ただ HDL が増えれば良いという単純な話ではありません。実は、「善玉」と思われていた HDL にも動脈硬化を悪化させるような、いわゆる「隠れ悪玉」 HDL が存在することが明らかとなっています。つまり、単に「量」を増やせば良いというわけではなく、HDL の「質」

が担保されることが重要ということです。我々は、HDL に結合して、その機能を活性化するようなタンパク質の研究を行い、このタンパク質が HDL のコレステロール回収能や炎症を抑制する作用を増強することを明らかにしました。つまり、この結合タンパク質は HDL の「質」を改善する因子であると言えます。現在はこのタンパク質を人工的に作成し、HDL 創薬に応用することを目指して、生体での効果を検討しているところです。

HDL を対象とした研究は、病態や疾患の発症メカニズムに関する視点からだけでなく、細胞生物学的なメカニズム研究、すなわち、脂質代謝やシグナル伝達機構、脂質恒常性維持に係る遺伝子発現制御機構について理解し、さらに、脂質や脂質粒子の物理化学的、界面化学的な解析研究と連携させながら展開する必要があります。複雑で厄介ですが、奥が深く挑戦的で、ハマると抜け出せなくなる魅力があります。近い将来、我々の手によって HDL 創薬を実現することを目指して、日々研究を続けています。



## ■平成30年度薬用植物園一般開放



生薬学分野 教授（薬用植物園園長）

**柏田 良樹**

Yoshiki Kashiwada

**薬** 学部では、薬用植物園一般開放を毎年秋に開催しており、来園された方に興味をもってもらえるよう種々のテーマ展示を併せて行っています。

今年の一般開放は10月15日（月）～19日（金）の5日間行いましたと

ころ、900名を越える来園者がありました。今年のテーマ展示としては、研修室において一閑張りや薬草画の作品を展示するとともに、アロマオイルで作る炭酸入浴剤作製の実演・体験を行いました。生薬学分野の学生がアロマオイルの効果などを交えながらの説明と炭酸入浴剤作製の実演を行い、参加者に作製体験を行ってもらいました。テレビのニュースで炭酸入浴剤作製の場面が放送されたことから、本体験に興味をもって来園して下さった方も多かったようで、作製を楽しんでいただけたようでした。

また、園内では種々の薬用植物や、絶滅危惧水生植物のオニバス、味噌の味を良くするミソナオシ等、希少な植物や、赤い果実が花のように見えるア



炭酸入浴剤作製体験の様子



園内を散策する来園者の皆さん

ケビバナナなどを、来園者は興味深く散策して観察していました。

今後も薬用植物の啓蒙活動の一環として、一般の方に興味をもってもらえるような様々なテーマで一般開放を開催していきたいと思っています。

## ■研究倫理プログラムワークショップの開催について



衛生薬学分野 教授（研究担当副学部長）

**小暮 健太郎**

Kentaro Kogure

**平** 成30年8月31日、徳島大学薬学部のスタジオプラザにおいて、研究倫理プログラムワークショップを実施しました。このワークショップは、研究倫理教育及び薬学部・大学院薬科学教育部 FD 活動の一環として、大学院生及び若手教員に責任ある研究活動について認識してもらうこと

を目的に企画されたもので、教員14名、学生42名が参加しました。

今回のワークショップでは、ある助教の研究において、研究不正の疑いが発生したという設定のもと、教員と大学院生からなるグループごとに、それぞれが与えられた役割を演じるロープレ形式で、用意された状況下において自身の考えを選択し、その結果についてグループで議論するというSGD（スモールグループディスカッション）方式で行われました（写真上）。その後、各グループでの議論の結果を模造紙にまとめ、各代表者によるプレゼンテーションを行いました（写真下）。

参加者からは、「研究不正を考える良い機会になった」という意見が多く聞かれるとともに、「楽しく学ぶこ



グループディスカッションの様子



代表者によるプレゼンテーション

とができた」や「他の研究室の先生や学生と関わるができる良い機会であった」等の感想が寄せられ、研究不正を身近な問題として捉えらるとともに、他の参加者との意見交換を通して、研究倫理について考える貴重な機会になったようです。

## 新任教員紹介



創薬理論化学分野 教授

### 立川 正憲

Masanori Tachikawa

2018年9月1日付で、創薬理論化学分野教授を拝命致しました。世界に名だたる研究者を輩出してきた徳島大学において研究教育の機会を頂き、身の引き締まる思いです。私は、福島県会津で生まれ、東北大学大学院

薬学研究科にて博士（薬学）の学位を取得後、2005年から富山医科薬科大学／富山大学において助手／助教（薬剤学）、カナダ・プリティッシュコロンビア大学脳研究センターにおいて博士研究員（神経血管生物学）、米国・ジョージア医科大学（医化学）で訪問研究員、東北大学において助教／准教授（薬物送達学、医工学）として、薬学・医学の教育研究に携わって参りました。研究では、一貫して、血液脳関門や血液網膜関門に代表される生体バリアーの機構論的解明と薬物送達への応用研究に取り組んできました。この間、無謀にも異分野に飛び込み、一流の研究者や臨床医と出会い、共に研究をさせて頂いたことによって、ものの見方・価値観や、研究の進め方に至るまで、様々な刺激を受けてきました。異分野研究の境界線で、思いがけない

発見やブレークスルーが生まれる瞬間を、身をもって実感しています。徳島は、東北育ちの私にとって異郷の地ですが、第一次世界大戦時に、板東俘虜収容所（徳島県鳴門市）所長としてドイツ兵捕虜への人道的な処遇を行い、日独友好の礎を築いた松江豊寿は、私の生まれ故郷と同じ会津の出身であることなど、徳島に不思議な縁を感じております。先人の開拓者精神を見習い、徳島の地に、異分野融合によって、脳関門研究の国際的学際拠点を築き、次世代の中核創薬に展開させることが、私の目標です。さらに、科学の武器を身に着けて未踏の領域に果敢に挑み、中枢創薬・医療で世界と競える徳島大学薬学門下生の育成に尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 学生の活躍

### ■ Pure and Applied Chemistry International Conference 2018に参加して

分析科学分野  
大学院薬科学教育部博士後期課程1年

### 柿内 直哉

Naoya Kakiuchi

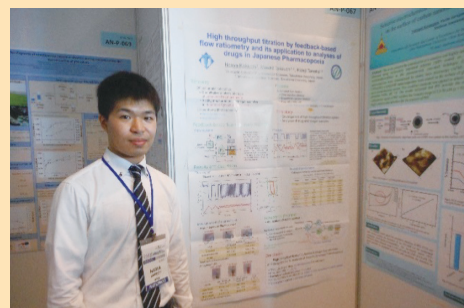
徳島大学薬学部海外旅費支援制度の補助を受け、2018年2月7日から9日までの3日間、タイのハートヤイ（Hat Yai）に渡航し、“Pure and Applied Chemistry International Conference 2018 (PACCON 2018)”に参加させていただきました。本学会にはアジアを中心に世界各国から

分析化学、無機化学、有機化学などの研究者が参加し、2016年に“The design and synthesis of molecular machines”でノーベル化学賞を受賞したJames Fraser Stoddart氏ほか2名によるPlenary Lecture 3件のほか、招待講演33件、一般口頭118件、一般ポスター562件の発表がありました。

私は、研究成果を“High throughput titration by feedback-based flow ratiometry and its application to analyses of drugs in Japanese Pharmacopoeia”と題してポスター発表を行いました。発表は練習通りにできましたが、質疑応答では全ての英語を聞き取ることができず、頭の中に浮かぶ日本語を英語で表現することにも大変苦労しました。初日の夕刻よりWelcome receptionが開催され、珍しいタイ料理や中華料理をいただきました。余

興ではタイ舞踊が披露され、「指先の芸術」と呼ばれるだけあって指の繊細な動き、踊り手の表情や衣装、音楽を楽しむことができました。

海外での国際会議に参加したのは初めての体験でしたので、多くの貴重な刺激を受けました。国際的に著名な研究者や優秀な学生との交流を通じ、学ぶところが多くありました。最後にPACCON 2018に参加する機会をいただきました田中秀治教授と旅費の一部をご支援いただきました徳島大学薬学部深く感謝いたします。



ポスター発表

## 学生の活躍

### ■ 実務実習を終えて



薬学部薬学科5年

### 三村 美夕紀

Miyuki Mimura

**実** 務実習では、徳島大学病院と石井町にある杉山薬局において実習をさせていただきました。

大学病院での実習では、病院で行われている様々な業務内容について学ばせていただきました。その中でも、特に印象に残っていることは、病棟業務です。私は食道・乳腺甲状腺外科で6週間実習をさせていただきました。この

病棟では、がんで入院される方が多くいらしたため、がんの病態及びその治療法について、学ぶことができました。

一方、薬局実習では、幅広い疾患の患者さんが来局されるため、様々な疾患について勉強する事ができました。また、杉山薬局ではOTC医薬品や日用品も幅広く扱っており、それらの販売における薬剤師の役割についても学ぶことができました。

このように実務実習では、実際に薬剤師が病院及び薬局においてどのような役割を果たしており、どのように活躍しているかを知ることができました。また、薬剤師が職能を果たすには、患者様への態度や他の医療従事者とのコミュニケーションが重要になってくるということを改めて実感することができました。薬剤師は、患者様だけでなく医師や看護師などの医療従事者との関わりによって成り立つ職業であり、それらの方々との信頼関係を築



実習先の薬局の皆さんと

く必要があります。そのためにも、医療従事者と共に患者様の治療法について話し合ったり、患者様にお薬をお渡しする際には必要な説明を行うだけでなく、患者様とお話することでご不安やお悩みを伺ったり、患者様の状態を確認したりする、ということを受動的に行うのではなく、自分から積極的に行わなければならないと感じました。将来、薬剤師として働く上で、医薬品や疾患及びその治療についての知識を身につけることは当然ですが、それだけでなく周りの方々とのかかわりを大切にし、患者様に寄り添い、信頼される薬剤師になれるよう努力していきたいと思います。

### ■ 研究体験演習を履修して



薬学部創製薬科学科1年

### 武川 和人

Kazuto Takegawa

**入** 学から間もない1回生前期、私たち創製薬科学科の学生は研究体験演習を行いました。この研究体験演習は、1回生という早い時期から実際の研究を体験することで、講義だけでは得られない刺激を受けようというものです。昨年度までは共通学科での募集だったため、今年度から初めて開講されました。私は3つの研究室に希望を出し、研究体験演習を行いました。その中でも特に印象に残ったこと

は、動物実験を行う先輩の姿を目の当たりにしたことです。実際の解剖を目の当たりにして、学問のために尊い命を費やしていることを改めて認識し、犠牲が無駄でなかったと言えるように、学問の発展に貢献していこうと思う機会となりました。



薬学部創製薬科学科1年

### 佐野 陽乃里

Hinori Sano

**1** 年生のうち座学ばかりだと思っていましたが、今年から研究体験演習が開講され、自分の興味のある研究室の体験に行けるということで、有機合成薬学分野、創薬生命工学

分野、薬品製造化学分野の研究室に行って研究体験をさせていただきました。

実験をする上で、どういった反応が起こっているのか、どうしてその薬品を使うのかということは自分だけではなかなか分からないものもありましたが、先輩方に教えていただいて理解することができました。またそういった

ことを自分で考えられるようになるためには、様々な知識や経験が必要になることが分かりました。

研究体験演習による研究の早期体験を通じて、創薬に対する高い意欲・興味を持つことができ、より一層勉学に励もうという思いが強くなりました。

## 薬学部関連ニュース



## 教員の異動

平成30年9月1日付採用 創薬理論化学分野 立川 正憲 教授

## 学会賞等受賞

## 【教員の受賞】

## ■日本 DDS 学会水島賞

受賞者：石田 竜弘 教授（薬物動態制御学分野）／受賞年月日：平成30年6月22日／表彰団体名：日本 DDS 学会  
受賞内容：生体内動態の理解を基盤としたリポソーム DDS の開発：臨床応用を目指して

## ■平成29年度特別研究員等審査会専門委員表彰

受賞者：山崎 哲男 教授（医薬品病態生化学分野）／受賞年月日：平成30年7月31日／表彰団体名：独立行政法人日本学術振興会  
受賞内容：有意義な審査意見を付していただいた専門委員等

## ■日本ケミカルバイオロジー学会第13回年会 ポスター賞

受賞者：田良島 典子 助教（生物有機化学分野）／受賞年月日：平成30年6月13日／表彰団体名：日本ケミカルバイオロジー学会  
受賞内容：mRNA の構造変化を誘起する中分子化合物の創製 - c-di-4'-thioAMP の合成とリボスイッチに対する結合親和性評価 -

## ■ Best Poster Presentation Award

受賞者：福田 達也 助教（衛生薬学分野）／受賞年月日：平成30年7月28日／表彰団体名：18th symposium for Gene・Design and Delivery  
受賞内容：Development of liposomes with leukocyte-like function by intermembrane transfer of leukocyte membrane proteins

## ■ Postdoctoral Presentation Award

受賞者：福田 達也 助教（衛生薬学分野）／受賞年月日：平成30年8月23日／表彰団体名：日本薬学会 第43回製剤・創剤セミナー  
受賞内容：リポソーム化脳保護薬と血栓溶解剤併用による脳梗塞治療法の開発

## 【学生の受賞】（学年は受賞時）

## ■学生優秀発表賞

○受賞者：佐藤 亮太 (D3)  
受賞内容：Calyciphylline F の全合成

○受賞者：田中 裕大 (M2)  
受賞内容：リソソーム病でのオートファジー異常に関わる共通因子の解析

受賞年月日：平成30年4月13日  
表彰団体名：日本薬学会第138年会

## ■学術奨励賞

受賞者：森戸 克弥 (D2)  
受賞年月日：平成30年5月27日  
表彰団体名：第59回日本生化学会中国・四国支部例会  
受賞内容：乳酸菌が産生するリノール酸代謝物の動物細胞への取り込みと代謝

■創薬懇話会2018 in 志賀島  
優秀ポスター賞

○受賞者：小宮 千明 (D3)  
受賞内容：発現タンパク質に適用可能な新規チオエステル合成法の開発

○受賞者：堤 大洋 (M2)  
受賞内容：DMAP の触媒機構の解明とその応用

○受賞者：占部 敦美 (M1)  
受賞内容：アルカリ性不良土壌での農耕を志向したムギネ酸類の実用化研究

○受賞者：石塚 匠 (B4)  
受賞内容：(+)-Lapidilectine B の全合成研究  
受賞年月日：平成30年6月22日  
表彰団体名：日本薬学会医薬化学部会

■創薬懇話会2018 in 志賀島  
ベストディスカッション賞

受賞者：柏原 雅也 (M1)  
榎原 拓哉 (B4)

受賞年月日：平成30年6月22日  
表彰団体名：日本薬学会医薬化学部会

■第24回中国四国支部分析化学若手セミナー  
優秀ポスター賞

受賞者：岡 尚生 (D1)  
受賞年月日：平成30年7月1日  
表彰団体名：日本分析化学会中国四国支部  
受賞内容：分子科学計算によるFK506結合タンパク質とリガンドとの分子間相互作用解析

■第50回若手ペプチド夏の勉強会  
優秀講演賞

受賞者：小宮 千明 (D3)  
受賞年月日：平成30年8月7日  
表彰団体名：日本ペプチド学会  
受賞内容：加水分解酵素を利用したC末端特異的チオエステル化反応の開発

■第50回若手ペプチド夏の勉強会  
優秀ポスター賞

○受賞者：成瀬 公人 (D2)  
受賞内容：On-resin チオエステル化法から得られた知見とその応用

○受賞者：安養寺 啓太 (M1)  
受賞内容：がん抑制タンパク質 PHB2 からの創薬シード発掘

○受賞者：上田 将弘 (M1)  
受賞内容：酵素を利用したチオエステル調製のためのC末ペプチド配列の最適化

受賞年月日：平成30年8月7日  
表彰団体名：日本ペプチド学会

■第50回若手ペプチド夏の勉強会  
優秀討論賞

受賞者：小林 大志朗 (B4)  
受賞年月日：平成30年8月7日  
表彰団体名：日本ペプチド学会

■第34回若手化学者のための化学道場  
優秀ポスター発表賞

受賞者：岡本 龍治 (M1)  
受賞年月日：平成30年9月14日  
表彰団体名：有機合成化学協会中国四国支部  
受賞内容：Nagelamide K, Q の全合成研究謝

## 学部等支援基金(薬学部) ご寄附のお願い

薬学部は、職種にかかわらず多様な薬学領域の様々な分野に対応可能な人材「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」育成を教育理念とし、薬学の新たな未来の創造に貢献するため、教育研究活動を推進しています。このような取組を発展させるため、薬学部・薬科学教育部における教育研究、国際交流及び社会貢献等の様々な活動に基金を活用させていただき予定。皆さまからのご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

徳島大学へのご寄附は、徳島大学が発行する「寄附金領収書」を添えて確定申告を行うことにより、税制上の優遇措置を受けることができます。

●お申込み方法等、詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/foundation/>



発行：徳島大学  
編集：薬学部広報委員会  
広報委員：難波康祐、藤野裕道、植野 哲  
佐藤陽一、阿部真治、北池秀次

URL：http://www.tokushima-u.ac.jp/ph/  
〒770-8505 徳島市庄町1丁目78-1  
徳島大学蔵本事務部薬学部事務課総務係  
E-mail：isysoumu3k@tokushima-u.ac.jp

●皆様のご意見、ご要望、エッセイ、写真、絵画、漫画などご投稿を歓迎します。どしどしご応募くださいますようお願いいたします。次回の発行は、平成31年の6月頃を予定しております。